

2023年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>「進んで学ぶ人」(主体的に学び、協働して課題を解決する人)を育てるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準及び基準とねらいを明確にした授業を展開し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。 ・教材や指導法を工夫・改善したり、ICT機器を活用したりすることにより、個々の習熟度や特性に応じた指導を実践し、生徒一人一人の学力の伸長を図る。 ・「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善を行うことで、思考力・判断力・表現力等を育成する。

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・言語力の向上。 ・学習評価を通じた、個に応じた指導の充実。 ・ICT機器の効果的な活用による主体的・対話的で深い学びの実現。 ・発表する力の育成。

各教科の指導の重点	国語科	美術科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ・読書、語句の意味調べ、漢字テストなどを通して語彙力を身に付けさせる。 ・さまざまな文章を書く機会を設け、身に付けた語彙を正しく活用する力を育成する。 ・課題に沿って文章を読み深め、文章の内容を正確に把握できる力を育成する。 ・スピーチや話し合い活動等の意見発表、交流を行う機会を多く設け、さまざまなものの見方、考え方を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習において、作業手順を細分化し、スモールステップで表現する力を身に付けさせる。 ・友人の作品や世界の美術作品の鑑賞を通じて、多様な価値観を認め合うとともに審美眼を育てる。 ・自分自身と向き合い、表現の可能性を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学びの中で、生徒自身による課題設定と振り返りを行う。自ら学んだ成果や過程を意味づけ、評価することを通して、次の学びに生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的・体験的な学習を取り入れ、議論や発表などの活動を通して、多様な見方・考え方に接し自己の生き方について考えを深めさせ、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる。
	社会科	保健体育科	特別活動の指導の重点	
	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材を利用して、視覚的に内容を理解できるようにする。また様々な資料や知識をもとに事象について考え、表現できる力を育成する。 ・積極的に資料や図、データ等を提示した上で、読み取らせたり、意見を交換させたりすることで、多角的な社会的事象についての見方や考え方を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備・補強運動、種目に応じた体ほぐしの運動を取り入れ、基礎体力向上を図る。 ・一斉指導で技能のポイントを理解させる際に、視覚的に分かりやすいように、見本を見せたり、視覚的教材を活用したりして理解させる。 ・ペアやグループで学習を進めていくことで、お互いの理解につなげ、思考判断や知識理解の定着と、意見やアドバイスをすることで言語能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、QUアンケートを実施し、いじめや不登校の早期発見・対応に生かす。学級活動では、協働的な活動に取り組み、多様な意見に接し、互いを認め合い考えを深め、学び合う集団を形成する。 	
	数学科	技術・家庭科		
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して粘り強く考える場面をつくり、自らが納得して学習ができるようにする。 ・考えを発表する機会を設け、他者の考え方も学ぶことで自分の考えを深めさせる。 ・数学术語の意味を理解、把握させる。 ・基礎力は計算問題を反復練習することで定着させ、応用問題を通して、思考力を高める。 ・数学の対象に自らが進んで疑問をもち、主体的に学習ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先を見通して課題に取り組む力を養う。そのために、基礎基本の定着を図る。 ・どのような作業をどのような工程を経て行うかの指示を明確にし、段階的評価、定期的な学習内容の確認を行う。 ・体験的な活動を通して、学習内容をより深められるような実習を実施する。さらに、ICT機器による映像教材の使用によって、より効果的な学習となるようにする。 		
	理科	外国語科		
	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習の時間を適宜設けることにより基礎的、基本的な知識・技能の定着を図る。 ・実験、観察において話し合い活動などを通し、課題を見つけたら、結果から事物、現象の規則性を導いたり、思考・判断・表現の力を育む。 ・課題に対する評価規準を明示し、目指すべき姿を明確にすることで、生徒の主体的に学習に取り組む態度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年では、ペアワークやグループワークの時間を多くとり、状況・場面・設定に応じた表現力を育成する。少人数指導では、語彙や表現、基本文法の反復練習に取り組み、自己表現につながる基礎基本の定着を目指す。 ・2、3学年では、少人数指導の特性を生かし、個に応じた指導の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。 ・テーマを与え、興味・関心のある事柄について主体的に考え、自ら発信するコミュニケーション活動を充実させる。 		
	音楽科			
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の指導のねらいを示し、生徒の意欲、技能、表現力、個々の基礎能力を育成する。 ・視聴覚機器、グループ活動、実技、対話的学習等、学習形態を工夫し、学習内容を深める授業を実践する。 ・授業や行事での発表を通じ、表現力を育成する。 			

本校の授業改善に向けて	○価値ある対話の共有	○振り返りの設定	○ICT機器の活用
<p>各教科等において習得する知識・技能を、「見方・考え方」を働かせながら比較・統合・関連付け等を行い、自分の考えを広げられるようにする。生徒が根拠を基に多様な考えを述べ、他者との対話を通し、自分の考えを深められるようにする。</p>	<p>評価規準および基準を明確に示し、振り返りの時間を計画的に設ける。また、目標に準拠した形成的・総括的な評価を適切に実施することにより、生徒の学習状況を把握し、指導の在り方を見直し、授業や指導計画等の改善に生かす。</p>	<p>大型提示装置やChromebook等を効果的に活用する。互いの意見を即時に共有したり、全体傾向の把握や考えの比較・分類・整理を行ったりすることにより、学習内容の理解を深められるようにする。</p>	